

1994年11月15日発行 1975年2月28日第3種郵便物認可  
毎月1回15日発行  
定価／150円  
年間購読料／2,000円（送料共）

編集／緑の地球ネットワーク  
**Green Earth Network**

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル（〒552）  
Tel. 06-583-1719 Fax. 06-583-1739  
郵便振替 00940-2-128465（大阪4-128465）  
COM21 通巻325号 発行/COM企画室

# 緑の地球

# GREEN

# EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 黄土高原考察記 ..... P 3
- 進展につれてわかつてきしたこと ..... P 4



整地作業を終えて現地の子どもたちと歌を交換（天鎮県賈家屯郷で）

1994・11

**31**

# 会員拡大にご協力を！

## ～ひとりがひとりの新会員を～

緑の地球ネットワークは、準備会を結成して活動を開始してから、まもなく3年になります。

最初に手がけた中国の黄土高原における緑化協力活動は、当初の予想をはるかに上回る速度と規模で進展してきました。会員ならびに支持者のみなさんの積極的な参加と支持によるものであるとともに、世界各地で活動している先輩たちの努力によって、NGOの国際協力の役割とその重要さが日本国内でも広く認識されるようになってきたことが背景にあってのことだと思います。

## にぎわった大阪城公園 ワン・ワールド・フェスティバル

関西にもこんなにNGOがあつたんか、参加しないところもあるやろうからもっとあるはずや、関西も捨てたもんじゃない。と嬉しくなってしまったワン・ワールド・フェスティバル。10月16日、大阪城公園・太陽の広場で開かれ、GENも参加してきました。

ステージ、ワークショップや、ODA、青年海外協力隊、国連関係機関のパネル展示、エスニックフードショップ、そしてNGO65団体のテント。どこかの運動会の放送も聞こえるなか、太陽の広場は一日賑わいました。

GENのテントでは絵ハガキなどを販売。荒涼とした黄土高原の写真に、中国からの留学生もじっと見入っていました。展示したパネルを見にテントに入ってくれた人には学生が多かったようです。会員さんもたくさん見にきてくれました。去年の夏のワーキングツアーに参加したカツオくんこと磯野君は、去年はカツオくんのニックネームがぴったりだったのに今年はずいぶん大人の顔になっていてびっくり。兵庫の上田さんは子どもさんといっしょにずっしりと重い空き缶募金箱を持ってくれました。1か月そこそこで回収できるとは思っていなかったので感激しました。

私たちはまた日本国内においても、自然と親しむ会、報告会、講演会などをひんぱんに開催し、各方面のみなさんの積極的な協力と参加をえてきました。

そしてまもなく、アイヌの人たちと共に、北海道・二風谷におけるナショナルトラスト運動を開始することになっています。

これまでの歩みをふりかえり、今後の活動のありかたを検討するために、95年2月に第2回の会員総会を開催する予定ですが、それまでに、より強化された体制を実現したいと思います。

関西のNGOの活動の様子も見られたらし、またこのような機会があれば参加したいと思います。みなさんも、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

## あつまりました～ 使用済みテレカなど8千枚あまり

使用済みテレカで黄土高原に苗木を！と呼びかけたところ、10月末までにテレフォンカード7,460枚、その他のカード760枚が寄せられ、あわせて78,400円になりました。

しばらく前は1枚20円だったそうですが、ボランティア団体がたくさんとりくみ、回収量がふえたため、値下がり気味だということです。

それでもカード1枚でカラマツなどの苗木が10本買えます。

11月に入ってからも、ソロプチミスト奈良から2,000枚、池田市の細河中学校2年2組の484枚など、大口を含め、たくさんのみなさんのご協力をえています。

テレカだけでなく、どんな種類の磁気カードでもけっこうですので、ご協力くださいようお願いいたします。

## 空き缶募金箱

ひきつづきよろしく

軽いアルミの硬貨、1円玉。これ1枚で何が買えるでしょう。日本では何

読者のみなさんがまだ会員になつておられないかたには、この機会にぜひ会員になっていただきたいと思います。

そして会員のみなさんには、緑の地球ネットワークの活動をぜひ周囲のかたに訴えていただき、新しい会員を拡大していただくよう、心からお願いいたします。同封のリーフレットをそのために活用していただきたいと思います。

また、会報「緑の地球」の購読者拡大は、会の活動のすそ野を拡大するためにきわめて重要です。別項でお願いしております、緑化基金、使用済みテレカの収集などとあわせて、ぜひご協力くださいようお願いいたします。

も買えません。でも、中国山西省では、松の苗木が1本買えるのです。

毎日少しずつそんな「1円」や「5円」を貯めて、黄土高原の緑化に役立てよう。そんなきもちから生まれた空き缶募金箱ですが、はじめて2か月たらずで3人の方に缶いっぱいの募金をよせていただきました。ありがとうございました。これからもよろしく。

店頭など人の集まる場所においていただける場合は、A5サイズ（横15cm×縦21cm）のスタンドポップをご用意しています。お送りしますのでご連絡ください。

## 佐野茂樹さんが

### 代表世話人を辞任

ことし7月の世話人会で、佐野茂樹さんから代表世話人を辞任したいとの申し入れがあり、あらためて9月に、代表世話人ならびに世話人を辞任するとの通告がありました。世話人会で検討した結果、申し入れを受諾するとともに、95年2月開催予定の会員総会で体制を整備しなおすこととし、それまで高見邦雄世話人が代表世話人代行となることを決定しました。

ネバール・サウル村での協力は実質的に佐野さんによって担われておりましたが、今後、その活動に専心することです。



# 黄土高原考察記

東北大学付属植物園園長 遠田 宏



恒山を訪れた専門家考察団（右端が遠田先生）。

初めて目にする黄土高原は、私のわずかな予備知識をはるかに上回るものでした。渾源の南東に連なる高さ数百メートルにおよぶ断層崖は、古生代の縞状の地層を露出させその壮大な美しさに見とれましたが、その反対側に見える山脈の一部は古生代をはるかに遡る20数億年前の地層からなるとのことで、まさに地球の歴史を見る思いがしました。もちろん、今回私たちが考察した表層の黄土の大半はせいぜい1～3万年の歴史をもつ地球としては新しいのですが、西留郷への途中にあった漢時代の陵や、各所にみえる狼煙台は、この黄土の上で紀元前から繰り返された内乱の目まぐるしい人間の歴史が刻まれてきたことをものがたっており、中国の歴史に疎い私も感慨深いものがありました。

この高原に縁を…と考えると、有史以前のもともとの植生を推定することが大切ですが、私は立花さん同様に平地に限っていえば、それは森林ではなく基本的には乾草原（乾燥ステップ）であり、現在の見渡す限りの広い耕作地は、その草原を耕作地化したものとの強い印象を持ちました。呉城郷への途中、車がパンクして立往生しましたが、そこで見た耕作地の表層20～30cmはその下の黄土とは不連続に色も異なる乾燥耕土であり、その境界には白い小さな岩石状の塩類の結晶（おそらくは炭酸石灰）が層状に挟まれて

いて、乾燥気候下で長年にわたり常に耕作が続けられてきたことを示していました。この周辺のボプラの生育状態もみましたが、黄土のアルカリ性を問題とせず、年輪幅7mmをこす勢いで非常によく育っていました。しかし、いずれも水が充分供給される道路側溝沿いか水路沿いに線状に植林されたものです。水路の

ない所での大量の平面的な植林は、もともと水不足で森林は成立しなかった（だから草原であった）地域とすると、その結果は悲観的なものが予想されます。50年代に大量に植林したボプラが生育が悪く灌木状の小老樹となっている写真を見ましたし、大同県南郊区平旺村の見事な畑も7年前（？）までは小老樹の林であったと聞き、示唆のことと思いました。自然の法則に逆らわず、畑に適した所は畑に、そうでない所は草地にもどして牧畜を、との感想を持ちました。ボプラの大敵カミキリムシもいましたし、ネズミ穴も沢山みられました。もしステップの代表であるハタネズミなら、100匹でヒツジ1頭分の食物を消費するそうですから気になります。

山岳地帯になると事情は一変しました。私たちの登った恒山は黄土層は薄く、崩壊した山体の基盤が至る所で露出して黄土と混じって土壤を形成しています。頂上から少しさがった所では深さ30～40cmは黒褐色の土壤であり、おそらくは有機質も多く、pHも低いことでしょう。廟から上は問題なく森林は成立し自然更新もみられました。シダ類やコケ類、草木類が多くランもあり日本でみる亜高山とあまり違いません。降水量はさほど多くはないにしても、雲霧林として水の供給もかなりあるようです。かつてこの地方は森林に覆われていたとのことですが、それ

はおそらくは山地でのことでしょう。恒山でいえば南面の植林地の少し下あたりまでは可能だったかも知れません。尾根筋にはマツが、斜面にはトウヒ、モミ、カラマツ、カバ、ニレの仲間が交じる混淆林を想像しました。現在でも山岳地帯の一部にはヒヨウやハゲタカ、シカが生息しているとのこと、食物連鎖からみてかなりの自然が保たれているようです。過去の伐採は山麓から次第に上に進んだことでしょうが、長年月たって土壌も変わっているはずです。現在の山岳地帯の森林を植林によって再びどこまで下に広げられるか、が課題のように思いました。

農地に年々食い込んでゆくガリー（雨裂により深い溝谷）には驚きました。植林による直接的な防止は無駄な抵抗らしく樹木ごと崩れていきました。現地には自然状態で落ち着いているガリーが各所にみられ、それには一定のパターンがあるように見えました。む



小老樹の林。懷仁県では県の面積の20%を占める。

しろそのパターンをモデルにして人海戦術で……とは素人の私の戯言です。

短い期間の考察でしたが、曹さんの見事な通訳のお陰もあって充実したものでした。この考察が地域の人々の幸せに少しでも役立つのであれば嬉しいことです。中国の改革・開放政策は「先富」（条件に恵まれた地域や個人から先に豊かになる）をベースにしているのですが、条件に恵まれないこの農村地域にもその波が一日も早く訪れるよう願いつつ渾源を後にしました。

## 黄土高原の緑化協力

## 進展についてわかつてきたこと

世話人 高見 邦雄

## ●なぜ中国なのか?

この活動を開始した3年前は「え、中国までわざわざ?」という反応が多かったのが、最近はむしろ「発展してるんだから、中国自身がやることだ」という声が強いようです。

私自身、大同への往復、北京に立ち寄るたびに、格差の拡大に矛盾を感じないでもありません。そこでよく人もいいます。「太行山脈のところに国境があって、それを境にちがう国、ちがう社会があるんだ」と。

中国は巨大な国です。人口でも、面積でも、ヨーロッパ全体より大きい。そして南北問題(中国の実際では東西問題=沿海部と内陸部との問題)を国の中に抱えています。

環境問題も深刻です。たとえば工業化、沙漠化、河川氾濫などのために、年に1%も耕地がなくなった、と指導部が警告しています。環境問題が世界でもっとも深刻な地域になった、と副首相も述べました。

海ひとつを隔てた巨大な中国の問題が、日本の私たちと無関係であるはずがないのです。

## ●協力関係の急速な拡大

92年春、私たちは山西省渾源県で2つのプロジェクトに10万元(当時のレートで約260万円)の協力をすることを合意しました。

93年度はそれが6つの県、17のプロジェクトに増え、金額も90万元弱(1280万円)になりました。

94年度は大同市のほぼ全域と朔州市の一部、1区9県に広がり、継続分も含めて26のプロジェクトがとりくまれています。資金協力も150万元(約1800万円)を上回ります。(イラストマップをごらんください)

自然条件が困難なために、なかには活着率がたいへん低いところもあります。しかし、全体としては比較的順調で、中国人たちとの信頼関係も強まっています。



3年間厳しい干ばつが続く。

この3月に訪れた広靈県平城郷のある村は、91年いらい降水量が300mm、190mm、140mmと減りづづけ、収穫も平年の3分の1以下です。訪ねた家々は食糧が底をつき、救済のトウモロコシで命をつなぎました。

1人あたりの年間所得は100元を切ることです(1元=12円弱)。

たいていの県の平均は、農村所得1人あたり350元~500元で、石炭がでたり、交通の便がよくて農産物を市場に出せる村は800元くらいになります。しかし山間では80~200元の村もあります。

## ●小学校に果樹園をつくる

貧しい村では、小学校に行けない子がかなりいます。なかには入学するのが75%、5年通って卒業するのが50%という村もありました。

それらの小学校に果樹園をつくることになりました。リンゴ、アンズ、クルミ、サンショウなどを植え、収益があがれば、教育条件の改善、就学保障などに使い、管理する農家の取り分も保障します。

この春のワーキングツアーハーは、その作業に参加し、村をあげての歓迎をうけました。幼い子どもがコップに水をくんで、植えたばかりの苗木にかけます。お年寄りは周囲にしゃがみこんで、笑顔で見守ります。

私たちの協力が地域に溶け込むためにも、この果樹園づくりは大きな意味をもったと思います。

93年秋に6つの小学校でスタートし、95年3月までに14になります。

## ●深く実際のなかに……

最初、私たちが訪れたのはこの地域の平均的レベルの村でした。それでも日本や中国の他地域と比べると、たいへんなところだな、という印象はありました。

その後、より困難な村での協力をスタートさせることになりました。

黄土高原を理解するためのキーワードは「水」です。

水さえあれば、交通や農地などその他の条件が相当に悪くても、人が住み、村ができています。

この夏、渾源県では「記録的な大雨」とのことでした。

ところが山ひとつ越えた大同県徐町郷は「大干ばつ、あと1週間雨がないと、春に植えた苗木も、作物も全滅の恐れがある」とのことです。

1週間後に問い合わせると、一昨日と昨日、雨が降って、家が5軒流されたというのです。

この春のワーキングツアーハーは、その作業に参加し、村をあげての歓迎をうけました。幼い子どもがコップに水をくんで、植えたばかりの苗木にかけます。お年寄りは周囲にしゃがみこんで、笑顔で見守ります。

最初、私たちが訪れたのはこの地域の平均的レベルの村でした。それでも日本や中国の他地域と比べると、たいへんなところだな、という印象はありました。

その後、より困難な村での協力をスタートさせることになりました。

黄土高原を理解するためのキーワードは「水」です。

水さえあれば、交通や農地などその他の条件が相当に悪くても、人が住み、村ができています。

この夏、渾源県では「記録的な大雨」とのことでした。

ところが山ひとつ越えた大同県徐町郷は「大干ばつ、あと1週間雨がないと、春に植えた苗木も、作物も全滅の恐れがある」とのことです。

1週間後に問い合わせると、一昨日と昨日、雨が降って、家が5軒流されたというのです。

この春のワーキングツアーハーは、その作業に参加し、村をあげての歓迎をうけました。幼い子どもがコップに水をくんで、植えたばかりの苗木に

## 黄土高原で育つかな 自然と親しむ会「種あつめ」

快晴の10月23日、神戸市森林植物園でハイキングを兼ねて種集めに参加しました。森林植物園から福本さんが案内をしてくださったのですが、普段目にも止めない平凡な木々が、福本さんのユーモラスな解説でいきいきしてきます。今まで全然覚えられなかった木の名前が、福本さんの「しゃれ」連発の説明でどんどん頭に入りました。たとえば、「この木は大きいけど『こなら』といいます。だって、『おおなら』なんて変でしょう？」という具合です。



福本さんの説明に聞きいる。

肝心の種のほうはこの夏の水不足と猛暑で、種の外形はできているのに中身がだめになったものが多く、異常気象の影響をさまざまと思い知らされました。植物園では採取をしてはいけないので、福本さんの指導のもと、主に

地面に落ちている「こなら」のどんぐりを集めました。子どもたちも夢中で、大きな袋に何百個と集めていました。一番黄土高原に向いていそうな「みずなら」は大きなどんぐりで、大人も童心にかえって夢中で探しましたが、いのししが食べたのか少なかったです。

種は生き延びるための工夫をいろいろ持っています。遠くへ飛ぶための羽根や、発芽に適した環境を待つため、発芽時期をコントロールする発芽抑制物質などなど。黄土高原でも厳しい環境に負けず、高度な知恵を發揮して生き延びてほしいと願っています。

(徳山良枝)

## 「日本の環境破壊と財政危機」 を聞いて

講師の河宮信郎氏は、金属工学が専門。大学の教員になったころ、科学技術の社会的な意味・役割を考え、公害・環境破壊の原因を追求してたどり着いたのが「日本土建国家論」だと前置きして、次のような話をされた。

産業の近代化は一般に「第一次産業→第二次産業→第三次産業」という構図で語られるが、日本で第一次産業のシェアを奪ったのは建設産業と金融・



40人近くの人が集まつた。

不動産業で、特に建設産業が日本経済の特異性を示す。建設投資は1960年以降ずっとGDPの15~20%を保っており、1992年度には87.5兆円になった。自動車や電機・電子産業がその関連部門を含めて40兆円規模だから、その2倍以上が建設投資に回っている。ゼネコン汚職もこのような建設産業と政治家の癒着構造として考えるべきだ。

建設投資の大半は公的資金である。政府はこの資金を生み出すため多額の借金をしている。財政法が禁止している建設国債を、法律のただし書きを拡大解釈して発行しているのだ。建設投資による利益は将来の世代も享受するのだから、負担もしてもらうという理屈で、国債の償還は60年で行われる。建設する施設の寿命は20~50年だから、将来の世代は寿命が尽き廃棄物になった施設のために借金を返済し続けること(次ページ下中央につづく)

## 山西省の自然

### (25) ラバ(驥)

中国文化を支えた象形文字(漢字)の中でもとりわけさてきなのは、物から馬へ、そして馬となって今に使われている文字で、たてがみをなびかせながら、颯爽と平原を駆ける姿を表しています。

野性の群から馴らして、うまく家畜化してから4000年あまりがすぎたと言われますが、生殖を管理して改良を重ね、権力者の武力の象徴として、部族の攻防や、榮枯盛衰の歴史を重ね、民族の大移動や、異文化の交流に大きく貢献してきました。

交通や運輸に力をつくしましたので、駐・驥・驅……罵・驚など、馬偏の文字が、わたしたちの日常語の中でも生

石原忠一  
(92年緑化協力団団長)

き生きと躍動しています。

定着農民たちが、役用家畜として改良を加えた傑作が、驥(ラバ)でしょう。♀牝馬と♂牡驥(ロバ)との合い



の子として、人為的に生み出された驥は、肩高、1.5mぐらいの小型で、性質や声はロバに似て、強健で、耐久力が強く、粗食にたえるまことに重宝な役畜として山西省でもひろく飼われています。

驥とは逆の、♀驥と♂馬との合いの子は、駄駒といいますが、あまりよろこばれていないようです。いずれも異種間の雑種第1代として、特徴のある個体として立派に生きてゆきますが、もはや生殖能力はありません。

高見君の耳にした、ちょっとふたしかな情報によりますと、驥の仔は400元、馬の仔は1000元だのに、驥の仔はいちばん高く2000元で取引きされているらしいのです。でも山西省の農村の生産力は低く、ある地域の統計によりますと年平均所得は1人当たり300~500元とのことです。(1元は約12円)



中野紀子さん（看護婦、夏のWT参加者）

記録的な猛暑の夏も去り、いつの間にか秋風が身にしみる季節になりましたね。あの中国での日々が、もう遠い過去のような気さえします。

でも、あのすばらしい体験の数々は、今も私の心の中の大きな位置を占めています。本当に参加できてよかったです。



現地の人といっしょに整地作業（夏のWT）。

先日はわざわざ電話していただいたのに、留守電で失礼しました。9月30日の報告会にはぜひ参加するつもりでしたのですが、仕事が終わらず、行くことができませんでした。とっても残念でした。お借りしていたビデオもその時に持っていくつもりにしていたのですが、行けませんでしたので送らせていただきます。おそくなつて申し訳ありません。

これからもいろいろな活動に大変だと思いますが、お身体をこわさぬよう頑張ってくださいね。またいつかお会いできる機会があればと思っています。▼中野さんには、WTでたいへんお世話になりました。医療関係者がいてくださるとやっぱり安心です。お仕事が大変でしょうが、講演会や「自然と親しむ会」ものぞいてみてください。

三宅文子さん（大学生、夏のWT参加者）

小包が届きました。ビデオ丁寧にコンボウしてくださってありがとうございます。はじめの会合の時私以外は皆来ていたそうで。すごく残念だったです。私も行きたかった…。ツアーノ

クラブをだいぶん休んだので、これ以上は私用で休めないです。10月は休みのたびに試合で、滋賀大、阪大、奈良大などとんでもなく遠い所へいきます。中国へ行った時の写真を見てると、遠い昔のことのよう気がします。旅行中は体調が悪くて、全然笑った写真がないのが心残りです…。ムリしてでも笑えば良かった。夏あけて学校で友達らと旅行の話してる時、「どんな木植えたん？」と聞かれて「え…」とつまってしまった私。痛いトコつかれたって感じでした。

GENからの小包で、久々に中国を思い出しました。毎日のクラブは、勝ち負けのリーグ戦でピリピリした雰囲気で、秋休みにもかかわらず、授業のある私は写真を見てずいぶんホッとしてました。また皆さんと会いたいです。

東川さんたちもこれからもずっとがんばってくださいね。

初めての海外旅行をすばらしい思い出してくれた、GENの皆さん（高見さんの奥さんも…）やツアーノ皆さんに感謝して… 再見。

▼三宅さんのお便りに、ちょうど今頃の季節、クラブで休みもなく走り回っていた〇年前の学生時代をなつかしく思い出しました。クラブも勉強もがんばって、シーズンオフになったら、GENの事務所に遊びに来てね。

上田利明さん（造園業）

お葉書ありがとうございました。いつも会報を読んで勉強しておりますが、丹波の片田舎にありますので、なかなかそちらへ出向かれませんが、今回は下の子供2人連れて、大坂城見学がてら、ノコノコ出掛けました。

募金は家族で集めたものです。一番下の坊主も（幼稚園）わけのわからぬまま小遣いの残りを入れてくれました。

（前ページよりつづく）

となる。収益性があり、資金回収できていた間はよかったが、現在の建設投資は赤字を増大させるだけになっている。日本の国家財政、地方財政、財政投融資の合計規模は約160兆円だが、国公債残高は94年度末で30兆円を超える。金利を含めて毎年借金残高は増え

おいおい周りにも広めたいと思います。

“細く長く”をモットーに持続すべく頑張ります。

乾燥ステップ気候に属する黄土高原での緑化はいろいろ困難もあると思いますが、スタッフの皆さん頑張って下さい。ではまた。

▼上田さんは10月16日のワン・ワールドフェスティバルを見に来くださいました。その時早速ご持参いただいたずつしり重い空き缶募金箱には、なんと1万円近くが！1円玉と5円玉ばかりの事務所の募金箱とはえらい違いやと驚いてお札の葉書を差し上げたところ、上記のお返事をいただき、一層感激してしまったのでした。

池田市立細河中学校2年2組

緑の地球ネットワークのみなさま

この度は私たちの文化祭にいろいろご協力いただきありがとうございました。教室にパネルを使って展示をしたのでみんなも見ててくれてとてもやくにたち助かりました。また、みんなに募金や古切手、テレホンカードなどをよびかけて集めましたのでパネルと一緒に送ります。

森林のためにやくだてて下さい。

これからも、森林を守る窓口となつてください。私たちもできることはやっていきたいと思います。ありがとうございました。 2年2組一同

▼細河中学校2年2組のみなさんは10月29・30日の文化祭で「現実を知ろう、そして未来にむけて」というテーマでGENのパネルを展示。募金10,026円、使用済テレカなど484枚、古切手6,199枚を集めて送ってくれました。本当にありがとうございました。



るから、行き着くところ、国民はただ借金返済のために働くという時代を迎えざるを得ない。

どうすればいいかは、難しい。郵便貯金（建設投資に使われる財政投融資の財源）をやめる等の抵抗が考えられる。ゆるやかに改革されるのがいい。

（川島和義）

## 参加してみませんか 催しもの案内

●神戸市役所センター合唱団第18回演奏会「がんばれコータ」

主催：神戸市役所センター合唱団  
TEL. 078-221-1015

日時：11月24日（木）18時開場、18時30分開演

場所：神戸文化中ホール

費用：一般2500円、中高生1500円  
小学生・障害者1000円（当日各300円増）

「緑の地球」1号でご紹介した淡路島モンキーセンターの故コータ君。重度の障害をもちながら9年半を生き抜いたニホンザルのコータ君と、センター元所長の中橋さん、全国各地の子供たちとの交流が合唱組曲になりました。

●記録映画「あらかわ」試写会  
萩原吉弘監督・1993年シグロ作品  
大阪ごみを考える会、関西リサイクル運動市民の会（TEL.06-357-9393）共催  
日時：11月26日（土）1部・14時～16時、2部・18時～20時  
(上映時間80分)

場所：北市民教養ルーム

試写会カンパ：800円  
荒川源流から東京湾までの水系をたどり、川の様相と水問題、人びとの生活とのかかわりを描いた作品。

●『アジアを囲む会』  
『アジアの留学生を囲む会』  
主催：アジア図書館・アジア文化センター TEL. 06-321-1839  
会場：アジア図書館・アジア文化セン

### タ-

参加費：毎回1000円（一般）

11月26日（土）午後3時～

「ビルマ・カチン州の1300日」

講師：吉田敏浩氏（フォトジャーナリスト）

12月3日（土）午後7時～

「マレーシアの華僑社会」

講師：賴志強氏（阪大院留学生）

マーガレット・コッサン（神大院留学生）

12月9日（金）午後7時～

「海峡を渡った朝鮮人ボクサー」  
(ビデオ上映)

講師：石丸次郎氏（フォトジャーナリスト）

ゲスト：李東春氏（日本バンタム級チャンピオン）

12月17日（土）午後7時～

「アラビア見聞録—異文化の中で生きて」(スライド上映)

講師：水口泰司氏（高槻市立小学校教諭）

●公開セミナー『地球環境の実態』

「人工爆発と貧困」

地球環境ネットワーク『地球村』、環境教育振興財団（準）共催

講師：高木善之氏（地球村代表）

参加費：1000円

申込先：地球環境ネットワーク『地球村』事務局 TEL. 06-281-0309

※参加申込みが必要です。

日時：12月10日（土）13時30分～16時30分

会場：エルおおさか

●『留学生と語り交流する集い』

主催：大阪国際交流センター他

会場：大阪国際交流センター2F

TEL. 06-772-5931

日時：12月11日（日）13時30分～17時  
(受付13時～)

参加費無料・申込み不要

動きやすい服装でご参加ください。

### かん 甲の浦ポンカンをどうぞ

「地球にやさしい栽培、からだにやさしいポンカン」を、と大切に育てられた田中さんのポンカン。除草剤は一切使わず、農薬散布は年2回（最終散布6月末）、動物質有機肥料を年3回（春・夏・晚秋）施しました。

低農薬・有機栽培 ポンカン

●化粧箱入り（歳暮・贈答用）

5kg. 2L/3L 30個前後 3,800円

3ヶ L 20ヶ 2,500円

5ヶ L 35ヶ 3,300円

●普通箱入り

5kg. 2L/3L 30個前後 3,500円

ヶ L 35ヶ 3,000円

ヶ M 40ヶ 2,500円

●送料：620円（関西方面）。その他の地域はお問い合わせください。

●出荷：12月5日ごろ～来年2月下旬

●お申込みは田中隆一さんまで。

〒781-84 高知県安芸郡東洋町甲の浦  
TEL/FAX. 08872-9-2500

売上げの一部  
をGENに寄付  
していただいて  
いますので、ご  
注文の際「GE  
Nの紹介」と添  
えてください。

